

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】 「新沼小学校（藤沢町）」≪読書活動の推進≫
  - 2 【 家庭学習 】 お父さん、出番です！
  - 3 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
  - 4 【 みんなの声 】 ペっこ言い隊
  - 5 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
- 

1 【 実践事例 】 「新沼小学校（藤沢町）」≪読書活動の推進≫

学校が目標冊数を提示し、学校における朝読書と家庭における 5 分間読書により、読書習慣の定着に取り組んでいます。また、地域の読書ボランティアが学校の支援にあたるなど、「家庭」・「学校」・「地域」が行うことを明確にして取り組んでいます。

事例は⇒[http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei\\_niinuma.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_niinuma.pdf)

---

2 【 読書活動 】 お父さん、出番です！

育児に熱心な男の人のことを、「育メン」と言います。育児休業法が 1991 年に制定されて 19 年が経ちますが、実際に育児休暇を取っていた人は 100 人に 1 人という調査結果もあり、働くお母さんが増える中、お父さんの協力は不可欠と厚生労働省も今年「育メン・プロジェクト」を立ち上げました。

10 月 24 日（日）にアイーナを会場に行われた「子育てに活かす読書活動推進フォーラム」では、「育メンプロジェクト」を推進する NPO 法人ファザーリング・ジャパンの理事である東浩司さんを囲んでの“父親の子育て参画”を考える座談会が行われました。

「母性」と「父性」という言葉がありますが、ありのままを受け入れ、愛する「母性」によって子どもは“自己肯定感”を育み、自分のすべきことを自分でやらせる「父性」によって子どもは“責任”を学びます。

原因から起こる当然の結果を体験させ、居心地の悪さをじっと見守り、その中から自己の責任を学ばせるのが「父性」であり、社会の中で働く姿をとおして子どもは、世の中にも関心を持つようになります。お父さんの出番です。

子育てに「父性」は不可欠のものです。女性だから「母性」、男性だから「父性」というわけではありませんが、この両者のバランスは子育てにとって大切です。お父さんも子育ての学びの機会に参加し、「育メン」の輪を広げましょう。

お父さんの出番となると、野外活動や工作、運動となりがちですが、お父さんの読み聞かせも、良いものです。ユーモアにあふれ、遊び心のある読み聞かせや思いっきり怖い話の読み聞かせ。力強い「父性」による読み聞かせを子どもたちに聞かせる機会を学校や地域でつくっていったら楽しいと思います

また、高学年や中学生には、お父さんが小・中学生の時に読んだ本を薦めたり、親子で同じ本を回し読んだりしてみましょう。子どもを“子ども扱い”せずに、ちょっと背伸びをさせ、一人前扱いをすることで、子どもの成長を促すことにもつながります。岩手のお父さん、『育メン』になりましょう。

---

### 3【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) 10月24日は、本当にたくさんの皆様に集まっていただき、「子育てに活かす読書活動推進フォーラム」を楽しんでいただきました。ありがとうございました。

(振ちゃん) 400人を超える入場者で、座席数420人のアイーナホールは、ほぼ満席でした。とても、うれしかったです。

(教ちゃん) 25日には、「岩手日報」の紙面にも掲載され、また岩手朝日テレビの「スーパー・Jチャンネル」でも紹介されました。11月7日には「岩手日報」の紙面全面を使っての特集も組まれることになっています。こちらも楽しみにしてくださいね。

(振ちゃん) 中井貴恵さんは、お話の中で「小学校低学年までは我が子に読み聞かせをしてあげていても、3・4年生の頃になって『もう、自分で読めるでしょ』と読み聞かせをやめてしまうと、読書への興味が薄れてしまう」と言っていました。本当にその通りだと思います。

(教ちゃん) そうね。子供にとって「自分で読むことができる」ことと「親に読んでもらう」ことは別なのだけど、親からすると自分の力で読んだほうが良いと思ってしまうのよね。本当は、読んでもらう心地良さをたくさん感じている子どものほうが、本を好きになるのよね。親が“読み聞かせは、何歳まで”と決めることはないと思うわ。

(振ちゃん) 今日の教ちゃんは、熱いね。

---

### 4【みんなの声】ぺっこ言い隊

いつも楽しく拝見しております。10月は、スポーツ・文化の秋です。毎週のように子どもたちの行事があり、日程をやりくりするのは大変ですが、楽しく過ごしています。

先日は、吹奏楽の発表会と親子ソフトボール大会がありました。夫婦で1つつ行事を担当し、子どもの出番のときにはその場面だけは見に行くというハードスケジュールをこなしたところです。

私はソフトボールに行きましたが、懇親を深める趣旨の試合でも、いざとなると勝負にこだわるんですね。結局、「子どもたちに花を持たせよう」という当初の約束？とは裏腹に、親チームが勝ってしまいました。

次の日、体が痛くて出勤の辛いこと……。それでも、終わった後には会話も弾むので、こういう機会は大事にしたいものです。(H町Cさん)

⇒ 親子で同じ時間を過ごし、本気でぶつかり合うからこそ、共通の話題ができるのです。家庭において親子読書の時間を作ることや家庭学習で音読を聞いてあげることと同じこと。同じ家の中に居ながら、それぞれが別の部屋にいて、やっていることが別々では、共通の話題もできませんよね。

---

#### 4 【編集後記】あつしのひとりごと

2005年、総務省社会生活統計指標によると、人口100万人あたりの図書館数の全国平均は23.3館でした。東北6県でこの平均を上回っているのは4県で、特に秋田県が38.4館、岩手県が32.5館と飛び抜けています。

図書館数が多く、身近に図書館がある環境が整っています。また、各図書館では、蔵書やサービスの充実にも取り組んでいることと思います。放課後子ども教室が千厩図書館を会場に開設されているように、教育振興運動でも図書館という地域資源を有効に活用することが「読書活動の推進」のポイントのひとつだと思います。

⇒ 第32号は、11月9日(火)配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ [21kyoushin@gmail.com](mailto:21kyoushin@gmail.com)

★平成21年度配信のバックナンバー(第1~17号)はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成22年度配信のバックナンバー(第18~26号)はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index8.html>

★平成21年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★平成22年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index6.html>

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士(さとう あつし)

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう!」という雰囲気をあなたから作りだしてください。

~~~~~